

# 事務部門で 障害者が働く

—日華化学株式会社—

職場  
ルポ

EMPLOYMENT  
REPORT

(文)清原れい子 (写真)小山博孝



日華化学株式会社

〒910-8670 福井市文京4-23-1

TEL 0776-24-0213 FAX 0776-21-9227

あらゆる産業を支える  
「界面活性剤」を生産

福井駅で、「日華化学」の大きな看板が目に入り、地元を代表する企業だと知る。車で数分、市内にある日華化学株式会社を訪れた。会社が設立されたのは一九四一年。当時の木造の建物が本社玄関脇に復元され、創業記念館となっている。

「界面活性剤を作っている」と聞き、洗剤？とのイメージぐらいいか思い浮かばなかったが、それは認識不足もはなはだしく、界面活性剤には実にさまざまな機能があり、あらゆる産業を支えていることがわかった。

「どんな製品を作っているのですか？」との問いに、「まずショールームをご覧ください」と言われ、製品群を前にして説明を受けた。

おおまかにご紹介すると、界面活性剤とは、二つの異なった物質の境界面に働きかけて、その性質を変えていくもの。たとえば水と油は二つの層に分かれるが、この中に石鹸を入れてよくかきまぜると、水と油はまざりあい、乳化する。この場合の石鹸が界面活性剤。界面活性剤の作用としては、まぜるほかに、洗



上野嘉蔵取締役・経営支援本部長

う、泡立てる、泡を消す、しみこませる、溶かす、分離する、はじくなどがあり、繊維をはじめ、鉱工業、紙・パルプ、医薬、クリーニング、皮革、塗料、化粧品、ゴム・プラスチック、食品など、あらゆる産業とかわりをもっている。

日華化学がトップメーカーとして位置する繊維加工用の界面活性剤一つとっても、糸の平滑性、柔軟性、帯電防止性などを向上させる薬剤、風合いの改良、光沢の向上などの特殊加工を行う薬剤、繊維の特性を失わずに均一に染色する薬剤、耐光・耐汗・耐洗濯性などを付与し、色落ちや変色などを防ぐ薬剤、抗菌・防臭、防カビ、防炎、撥水加工などの仕上用の薬剤……と、さまざまなものがある。

私たちが身近に目にするものには、映画館やホテルなどの防炎加工されたカーテン、美容室で使われているヘアカラー剤やシャンプー、リンス、パーマ液、マー

ガリンやパン、アイスクリームなどの食品、水に濡れても破けないように湿潤紙力増強剤で加工された紙幣など。ちなみに一万円札の四枚に一枚は日華化学で加工された紙で作られているそうだ。

これらの製品は「地球環境に、人にやさしい」がコンセプトだ。

「化学メーカーですので、環境問題は避けて通れません。天然のオレンジオイルから抽出した工業用洗剤は、各種機械



手鹿賢則経営支援本部人事部長

や工具などの油落とし、船舶・飛行機などのエンジンやブレーキ回りの洗浄、家電製品の油污れ、手垢、カーペットの汚れ落としなどに使われています。染色工場で使っていただく染色排水処理用の薬剤とか、藻をつきにくくする、海洋にやさしい漁網防汚剤も作っています」

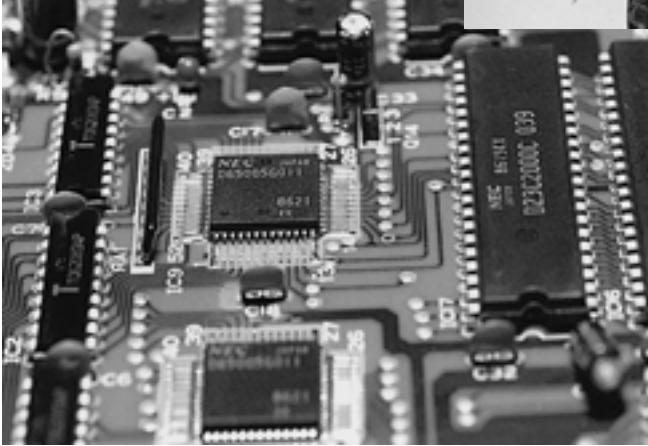
ともにご紹介しきれないので、より詳しく知りたい方は、ホームページ (<http://www.nicca.co.jp>) をご覧ください。

法定雇用率を意識して

日華化学は、繊維用加工薬剤の製造を主に、福井の繊維工業とともに発展して



日華化学の界面活性剤は、身近なところで、さまざまなかたちで使われている



きた。

全体的なお話は、取締役・経営支援本部長の上野嘉蔵さんに、障害者雇用の具体的なお話は、経営支援本部長の鹿賢則さんにかがった。

「最近では染色加工の部門も中国で行うようになっていきますから、新しい事業を開拓していかなければと考え、その一つがヘアケア化粧品です。お客様のニーズにすばやく対応ができるように、研究開発型企業の体制を整えています」

日華化学には三つの研究所があり、日華総合研究所では基礎から応用までを、毛髪科学研究所では消費材の分野を、日華バイオ研究所では二十一世紀の新技术の研究に取り組み、研究技術職が正社員五五〇名余の四分の一を占めている。

「グループ全体で売り上げはずっと伸びてきました。バブル

の崩壊もあまり関係なかったですね。今年になってちょっと厳しくなったかなと感じています」

障害者雇用の取材で日華化学を訪れたのは、福井障害者職業センターの推薦だった。実は、日華化学の前総務部長が職業センターのジョブコーチを務めているのだ。

「足が少し不自由な人などは、記憶にないくらい前から働いていました。企業の社会的な責任として法定雇用率は常に意識していましたが、定年退職などで、一時期かなり下回って、『これではいけない』と本格的に取り組みを考え始めたのが、前総務部長のころでした」

採用はハローワーク経由で行い、最近の二名は職業センターからの紹介だ。

「採用の基準はとくに設けてはいませんが、やる気があるかどうか、うちの社に合うかどうかです。ずっと勤めていたくことを一つの条件にして、転職を繰り返している方は避けています。全社一人一台のパソコンを配備して、連絡やデータの共存をしていますので、採用条件としてパソコンができることをあげています。面接では、障害者という甘えもたないようにと話しています」

採用後は、意識しすぎずに対応することを心がけている。

「各職場の長が理解を示してくれませんか、人事といえども配置はむずかしいですから、障害者雇用は企業の社会的責任として考えていかなければならないことを話しています。障害があると認識したうえで、できないところは手助けすると同時に、あまりに障害者ということを意識しすぎると、甘やかすことにもなりかねませんから、そのかねあいは考慮しています。本人に期待するのは、甘えないでほしいということです」

## 現場はむずかしい……。事務部門で採用

日華化学では創業者の名を冠した「江守奨学金」をつくり、三十年にわたって毎年、福井県内の養護学校で障害児教育に従事している先生を一、二名表彰し、七〇名から八〇名の障害児に月七、〇〇〇円の奨学金を出している。

「創業者である先代会長の娘さんに障害があったことも背景にあると想像しています」と上野さん。

「先代会長も現会長も、障害者に対する理解は深いので、人事としても障害者を雇用しやすいのは事実です。奨学金を出している企業が、法定雇用率を達成していないというのでは格好がつかませ



人事部で働く中村文昭さん（30歳）



ん。障害者は、間接部門、事務業務部門に配置をしています」と手鹿さん。

常用雇用労働者数は約六八〇名。現在、九名の障害者が働いている。聴覚障害一名、内部障害二名、そのほかの六名は、上肢・下肢などの身体障害で、そのうち重度の人が四名。重度障害者をダブルカウントした雇用数は一三名になる。

聴覚障害の人は障害程度六級なので、正社員として営業支援、商品開発支援の業務についている。

事務部門に四名、そのほかバイオ研究所のハウス内での軽作業、化粧品製造、工場内の清掃業務などで働いている。

「健常者と同等の仕事ができれば、正社員として採用しています。ちよつとむずかしいという場合は、正社員だと本人にプレッシャーをかけてしまうこともありますので、必ず更新することを条件に嘱託社員として採用します。健常者も定着率は高いのですが、障害者も居心地は悪くないのではないかと思います」

配置は、障害を考慮している。

「体温調節がむずかしい人は、ホームページ作成ができるというので、室温がコントロールされているシステムの部署に配置しました。以前、採用したいと思った優秀な方がいたのですが、作業場所に階段しかなかったので断念したこと

がありました。いまはエレベーターがついたので、車いすの人も採用しやすくなりました」

障害者が働きにくいと思われる業種については、除外率が設定されている。たとえば、道路旅客運送業七五%、医療業五〇%、建設業四〇%というようにだ。有機化学工業製品製造業の除外率は一五%だが、今年五月の障害者雇用促進法の改正で、除外率制度は廃止に向けて一定期間をかけて段階的に縮小されることになった。

「そうなったとき、また雇用率の問題に直面しそうです。化学メーカーですの  
で、配置できる場所が限られています。  
工場現場は自動化されていますし、大きな反応釜に一〇キロとか二〇キロの袋入りの薬剤を入れる作業がありますから、肢体不自由の人にはむずかしいですね。またその作業だけに従事する障害者を採用することはできない、という事情もあります。働いていただける部署が少ないので、その中で雇用を進めていくのは厳しいところがあります」

## それぞれの職場に溶け込んで

「人事としては、いまは法定雇用率を

達成していますし、障害者には若い人たちが多いので、長期的な雇用が期待でき、一安心しています」

「これからも社会的な責任は果たしていこうと思います」

お二人にうかがった後、事務部門で働く三人に話を聞いた。

人事部に所属する中村文昭（しむらふみあき）さんは、入社して三年目。以前はコンピューター会社で財務を担当していた。障害者の合同面接会で採用が決定。採用関係業務の補助と社員教育関係の業務に従事している。

「通信教育のデータ管理、修了者の奨励金返済などを行っています。いろいろな教育機関の通信教育をまとめたガイドブックを全社員に配り、その中からキャリアアップのために受講したい講座を申し込んでもらい、一定期間中に修了した人には受講料を返す仕組みです」

中でもメインとなるのは、事務、研究補助職に多い女性従業員のほとんど全員がとるという育児休業者の教育だ。

「今後は、さらに教材のレパトリーをふやして、育児休業をしている人たちが復帰したときに、休業前と比べていろいろな面でプラスになっているような教材を提供していきたいです」

職場の感想を求めると、隣で手鹿部長



今年5月に入社した笠島麻子さん（肢体不自由）。社内のホームページ作成を担当している

が「言いたいことを言っていていいですよ。愛の鞭がいっぱいとか……」。

中村さんは「居心地はいいですね。前の会社と比べると忙しいですが、楽しく仕事をしています」。そのやりとりが自然だ。

通勤は自宅からマイカーで約一五分。これからもずっと働き続けたいと思っている。

経営企画部システム運用支援チームに所属する笠島麻子さんは、今年五月に入社した。地元の養護学校を卒業後、国立吉備高原職業リハビリテーションセンターでコンピューターについて学んだ。

「高校を卒業して就職を考えたとき、手に職をつけたいと思い、吉備へ入所しました。昨年九月の合同面接会に参加して、事務の募集だったのですが、私の勉



経理財務部で活躍する加藤靖章さん（23歳・肢体不自由）



両肢にハンディキャップのある製造業務課の高見誠さん（25歳）。書類等の整理に汗を流していた

強内容などを質問されて、現在の部署でというお話をいただきました。社内のホームページをつくっています」

社会人になって半年。その感想を。

「吉備にいたとき、『ここは学校とは違う』と言われて、半社会人のような生活をしていました。それでも実際に会社に入ると、最初は戸惑うところもありましたが、少しずつ慣れてきました。

いまは仕事をこなすので一杯ですが、みなさんが見てくださっているということを意識し、体のことも考えながら、がんばっていききたいと思っています」

鯖江市から四〇分かけて通勤している。明るい画面の

ど。

「仕事はまだまだです。社名を聞いたことはありましたが、具体的なことは知りませんでした。仕事をしていて、想像していたよりもすごいことをしている会社だと思っています」

「みんな職場では仲間に受け入れられていると思います。それなりに存在感を出しているようですね。男性は、同僚や先輩とよく飲みに行っているようです」と手鹿さん。

職場をまわりながらの部長と障害者とのやりとりからも、「ノミニケーション」が成立しているというお話からも、「障害者がともに働いている」という社の雰囲気伝わってきた。

ホームページの評判はきつといいに違いない。  
続いて、経営支援本部経理財務部に勤める加藤靖章さんの職場へ。加藤さんは就職して一年ちよつと。大学の経営学部を卒業後、就職活動をしていて、福井障害者職業センターからの紹介で就職した。仕事は、伝票の管理や経費の計上な